
参加者からの質問と討論

仙波：それでは、ここから Q&A タイムに入っていきたいと思います。いくつか質問が来ていますが、最初に私のほうからお 2 人に 1 つずつ質問をしたいと思います。まず、マックロード先生 (KM)、ご講演、ありがとうございました。日本の状況というものを恐らくそんなに知らなかったのではないかと思います。長島先生のご報告を聞いて、どんな印象を持たれましたか。

KM：仙波さん、ご質問ありがとうございます。拝聴して、とても面白い内容だと思いました。特に、この経血、出血するということと社会的なスティグマが日本では密接な関係を持っているという部分が興味深かったです。あとはやはり古い考え方、スティグマというものが世代間で受け継がれているというお話もありましたけれど、若い世代の方が、もしこの生理の貧困ということも含めて生理についてもっと知りたい、理解したいという気持ちがあれば、状況は変わるのではないかと思います。

仙波：ありがとうございます。それでは、次に長島先生にお伺いします。プレゼンテーションの中でプラン・インターナショナル USA が調査を行ったことをご紹介されていましたよね。こういった調査は日本だけではなくて、各国で行われているものなのですか。特にプラン・インターナショナルのグループの中では、どのような国で行われているものなのですか。

長島：ご質問ありがとうございます。カースティンさんのレポートの中でも出てきましたが、プラン・インターナショナルで初めて生理の貧困について取り上げたのは UK 事務所で、2021 年にアメリカと日本でそれぞれ調査を行いました。生理を巡っては国によってテーマや、関心も異なるので、それぞれ独自の調査を行っています。

仙波：もう 1 つ長島先生にこの調査に関して、アメリカの調査の結果を見て思ったのですが、韓国であったり中国であったり、結構アジアでは、生理についてオープンに話せる環境ではないといったところが出ていましたよね。アジアはやはり月経というか、生理に対して話しにくいような文化、そういったものがあるのでしょうか。

長島：「こうだ」とは言いにくいのですが、ひとつ考えられるのが、日本や朝鮮半島、中国大陸

は文化的にも歴史的にもつながりが強い中で、「生理の経血が汚れたものである」、そこから女性を汚れたものとする考えが広がったことがあるのではないのでしょうか。スライドでも少しご紹介しましたが、中国から渡ってきた仏教の経典の中でそのような考えが紹介されており、その経典が朝鮮半島や日本へ伝播する中で、生理や女性を穢れた存在とみなす思想のベースができあがったと考えることができるかと思います。

仙波：ありがとうございました。それでは、参加されている方たちからも質問が来ていますので、そちらにお答えいただきたいと思います。まずは、「欧米では性教育が進んでいるというイメージがあったのですが、イギリスの7人に1人が初めて生理が来たときに何が起こったのか分からなかったと答えていて意外でした。欧米の生理などの性教育はどのようになっているのでしょうか。お答えいただけると幸いです。」というご質問です。これはカースティンさんにお答えいただきましょう。

KM：ご質問ありがとうございます。イギリスやスコットランドもそうですけれども、いろいろな性教育というものが今は提供されています。例えば小学校の高学年から、それから中学生の前半にかけて、いろいろな性教育のプログラム、しかもかなりオープンな内容というものが示されています。確かに性教育においては生理のことを科学的な根拠から、あるいは物理的なところから教えるということがあるかもしれません。しかし実際面として、生理が来たらどうするんだということ、そこには十分、焦点が当てられていないということはあるのかもしれません。

仙波：ありがとうございます。次は長島先生へのご質問です。「最後のスライドで、フランスでの性教育やコンドーム配付について触れられていましたが、早期性教育によって性交渉を早めてしまうというネガティブな意見もあるのではないかと思います。それについてはどうお考えですか」というご質問です。

長島：ありがとうございます。わたしたちの団体には15歳から24歳までのユースグループがおり、独自に課題を調査しているのですが、先日学校における性教育の在り方について調査、発表をしたんですね。そのレポートでは、早い段階で性教育を実施すればするほど、

性に対する理解が深まること、そしてその結果、早い年齢で性行為をしようと思う人というのは、むしろ減るという海外での調査結果を紹介しています。性行為についての正しい知識を得ることで、「今の自分ではまだそういったこと（性交渉など）は早過ぎる」として、年齢を遅くするケースのほうが多かったり、「相手に妊娠をさせない」という意識を持ってコンドームを使用するなど、正しい性行動を取るようになると指摘されています。早い段階で性教育を受けることは、早い年齢での性行動につながる訳ではなくて、むしろ性について理解をすることで、「自分が適切な対応ができる年齢になるまで待つ」という選択肢をもつことにつながると私は考えています。

仙波：ありがとうございます。では、次はカースティン先生にお答えいただきたいと思います。

「イギリスやスコットランド、ウガンダでは生理についての教育は初等教育、中等教育、高等教育のどの段階から中心的に行われているのでしょうか」というご質問です。これにお答えいただけますか。

KM：まず、ウガンダの例ですが、我々のプロジェクトで調べたところ、まず初等教育、小学校の段階でのこういった生理の教育のプログラムが存在していました。例えば Public Health Ambassadors といった、そういった団体がウガンダにはありますけれども、小学校の低学年でしたら、まず全般的な衛生の話ですとか、清潔な水についてとか手洗いの慣行とか、そういった話があります。でも高学年になりますと、今度は生理とか月経とか、あるいは性教育というように移っていくという、すごくきちんと組まれていると感心した記憶があります。あとウガンダの教育制度ですが、初等教育を受ける年数という期間が、実は他の国よりも長くて、例えば初等教育の高学年になりますと、最大 14 年間通うことができます。そういったことも影響してるかもしれません。あとはイギリスとかスコットランドですと、こういった教育に関しましては、少しばらつきがあります。大体、初等教育の 6 年生あるいは 7 年生くらいから始まります。ただ、こういった性教育に関しましてはそれぞれの学校が独自の方針で行いますので、何か統一された始まる時期というものはないわけです。しかも、最近、その生理が開始するとか始まる、その年齢がどんどん若年層

に移っている、低年齢化しているということですので、多くの場合、生理が始まってから、実際、この生理についての教育を受けるといったケースも増えています。

仙波：ありがとうございます。もう1つ同じ方から質問が来ているんですけども、カースティン先生、お願いします。「私は小学生のときに修学旅行に行くときに生理になったときのためにどうするべきかを、女性の教師から女子生徒のみを対象にそういった授業がありました。日本以外の国では男子も含めた教育がなされているのでしょうか。あるいは、そのような取り組みが行われようとしているのでしょうか」というご質問です。

KM：ご質問ありがとうございます。そうですね、一般的な話ですけども、男子生徒も女子生徒も例えば生理について学ぶという機会は与えられています。ただしその教育の深さだったり、広さということに関しましては統一されたものがないので、それぞれの学校の方針によって、その内容は本当に違います。ただ、最近の傾向としましては、やはり男子生徒に対しても女子生徒に対しても、同じようなレベルの生理に関する知識を与える方向に動いていると思います。このことはイギリスだけではなくて、ウガンダでも見られるような傾向です。

仙波：ありがとうございます。では時間も迫ってきたので、これが最後の質問になるかと思います。「母から娘への伝え方だと生理用品の進化が伝わらない傾向があるのでしょうか」というご質問です。恐らく長島先生のご報告の中に、生理について少女たちにメインで教えるのが母親ということで、母親の生理に対する考え方、それから印象みたいなものによって、娘の感じ方も変わってくるといったようなこととお話しされていたので、これに関係している質問かと思います。長島先生、いかがでしょうか。

長島：ありがとうございます。やはり「母親から娘へ」という形で対処の仕方や、「生理とは何ぞや」ということが教えられる中で、もちろんそこで正しい知識も伝わるかもしれませんが、例えば母親が、生理用品の使い方も含めて生理について間違った知識を持っていた場合、それが正しいものとして子どもに伝わってしまう可能性がまずあると思うんですね。アンケートの調査でも「専門家から生理について聞きたい」という意見もありました。生

理について語る相手が母親であるとか、極めてパーソナルな関係の中で語られることが多いために、「もしかしてこれは間違っているのかも」「病気なのかも」と思っても、どこに相談をして良いのか分からない。相談するにしても、家族以外の人と話すことが慣れていないので「恥ずかしい」という思いから相談をためらってしまう。その点が問題として考えられるかなと思います。

仙波：ありがとうございました。まだ議論は尽きませんが、時間も来ましたので、この辺でセミナーを終了したいと思います。今日、皆さまからいただきました質問とか、またこれからいただくコメントも、後ほどお二人の先生にお渡ししたいと思います。月経という生理現象があるために、女性だけが大事な機会を喪失したり不安を抱える状況というのは、国に関係なく改善されていくべきだと私は思います。この状況をもっと改善するために私たちは何ができるのか考えていかないとはいけません。日本の中でも、それからスコットランドでもん活動していくべきですけれども、何か協力して改善するような方法を考えていければと思います。本日は皆様、セミナーへのご参加をありがとうございました。



参加者の感想

1. 具体的な事例、特に海外の事例が参考になった。
2. 生理の貧困という言葉から、金銭的な問題のみをイメージしていたのですが、今回のセミナーを拝聴して、生理を恥とする考えから生理用品、痛み止め等ケアアイテムを手に入れる行動が取れない問題や生理について母親と娘の間で話されることが主という話を伺えて、この言葉から様々なジェンダーを巡る問題が浮かびあがってくると思いました。私自身についても社会生活を送る上で、男性の多い場では生理を意識させるような行動は抑制して、悟られないよう気を遣って行動していますが、その行動の規範となる生理を隠すものとする意識こそが女性の社会参加だけでなく、自分自身や女性を否定しているような気持ちがして、悲しく感じました。そして、せめて今の子どもたちには男女関係なく生理について学ぶ機会を教育機関で作って欲しいと願います。イギリスの学生たちの取り組みや世界的な生理についての教育が男女共になされている傾向にあるというお話は、ポジティブな未来を感じられました。社会人になってから仕事以外の領域で研究者のお話を聞く機会はあまり持てなかったのですが、Zoom 利用で大学のセミナーを聞く機会が持てたことも学生時代のみずみずしい知的好奇心を持てた時代に戻れた感覚があり本当に嬉しかったです。ありがとうございました。
3. 内容はとてもよかったです。質問や感想が聴衆者にはわからず、何となく蚊帳の外なので、できれば、その内容も表示する方がいいと思います。
4. 長島さんのこの問題に対するコメントを他で知って、このセミナーでもう少し詳しく聞きたいと参加しました。短時間で、いくつもの情報を得ることができました。自分の職場で利用者に生理用品を配布することになり、いろいろと調べるうちに、これが貧困の問題というより、ジェンダー平等の問題なのだと初めて知りました。
5. 「生理の貧困」について日本における問題だけでなく、イギリスやスコットランド、ウガンダでのケースについて知ることができ、現状の深刻さを改めて実感することができました。新たな発見が多くあり、実のあるセミナーでした。ありがとうございました。
6. 生理の貧困は、最近日本でも話題で、自分も関心を強く持っていたため今の時期に開催していただいてよかった。途上国における生理の問題についても興味を持っていたので貴重な機会になった。ただ、生理が恥ずかしいものであるという考えを、すべて否定すべきなのかはわからない。恥ずかしいから問題があったときに他の人に聞きづらいといったことは改善すべきであるが、公の場で語りたくない人もいて、それは悪いことではないと思った。
7. 大変おもしろかったです。男性の関わりについての取り組みも海外にはあるので、そのようなことも知りたいなと思いました。ありがとうございました。
8. 生理用品は自分で購入しなくてはならないという認識が強かったので、公共配布の運動あることに驚きました。長島先生のお話を伺うに、日本では否定的な意見も多いようですが、「たかが数百円」も積もれば山となりますし、他者から見えないショーツの中より、見える美容に優先してお金を使ってしまう心理も、理解できるものだと思います。また、携帯代を節約しろという意見もありましたが、それをしなくてはならないのが女性だ

けであるという点に不平等性があると思います、ここに、特に男性の生理へ対する知識の欠如が表れているのではないかと感じました。カースティン先生のお話にあったように、すべての人が性別に関係なく生理に関する知識を身につけられるようにする必要があると思います。公共トイレにトイレットペーパーや手拭き用の紙が当たり前に備え付けてあるように、生理用品も当たり前に置かれているようになってほしいと思いましたし、そうなるよう自分には何ができるのか考えてみようと思います。本日はありがとうございました。

9. 不勉強ながらこれまでに「生理の貧困」という言葉を聞いたことがなかったので、興味を持ち参加いたしました。生理であることだけでなく、生理用品についても「恥ずかしい」「隠さなければ」という気持ちになることについて、これまで当然だと思っていましたがそう思わなくてもいいのが普通なんだ、とはっとしました。これ以外にも気づかされることが多く、海外の事例との比較からも日本の課題を知ることができ貴重な時間になりました。ありがとうございました。
10. 自国だけではなく、他国の状況も教えていただいたことで、比較しながら拝聴できたのでよかったです。毎回、質の高いセミナーに参加できて大変感謝しております。運営にかかわっておられるみなさまに御礼申し上げます。ただ、セミナーの中でたびたび「生理（出産）が女性特有である」という発言がみられましたが、生理は女性だけに起こるものではないので、「生理のある人」などに言い換えた方がよいと思いました。
11. Very interesting. I wonder if I could get the slides or today's record, because I could not join until 18(I have a class)
12. 4月にNHKのクローズアップ現代プラスで生理の貧困の番組を見て、この問題について関心を持ち始めました。生理が女性の機会損失につながるということについてもっといろんな人が知って議論できたらいいな、と思います。あと、性教育を早い段階で受けることで、逆に知識を身に付けることで、より慎重に考えるようになったり、性行為を遅らせたりすることが調査でわかった、ということは大変興味深かったです。
13. 生理の貧困という言葉は何度か聞いたことがあって、意味もなんとなく理解している、という程度でしたが、今回国内外の実践や調査を伺って、深く理解することができました。大変有意義な機会を、ありがとうございました！通訳さま含めみなさま大変クリアに話してくださって、とても聞き取りやすかったです。今後のセミナーに向けた改善要望としては、zoom開催だとスライドの文字がぼやけがちになるので（回線の安定性の影響もあると思います）、フォントを大きくしていただけますと幸いです。今回、私は有線でないでございましたが長島先生のスライドがほぼぼやけていたので、今後は演者さまとスライドの見え方についても協議いただけますと幸いです。いつも有意義なセミナーを誠にありがとうございました。次回以降も楽しみにしております。
14. 非常に興味深いセミナーをありがとうございました。生理の話が主に母親から伝えられているという現状で、学校での教育の重要性、とりわけ男女一緒に生理について学ぶことの重要性を改めて認識しました。一方、すでに社会に出ている世代に対し、どう新しい情報を伝えていくかが難しいなと感じています。他方、男女センターの方に先日インタビューをしたところ、親子では身体について話しづらく、センターのような家族以外の居場所を

作ることが大切だと仰っていました。子どもに限らず大人であっても、そうしたことを話せる場所があればと考えています。

15. 途中質問があったように欧米の生理に関する教育はとても進んでいるという先入観があったので、カースティン先生のお話はとても興味深かったです。また、長島さんのお話も日本人でも知らない歴史や、性教育を早期にすることに対する弊害に関する研究結果を知ることができてとても勉強になりました。途中電波障害で聞けない箇所があったので、すべて聞けなかったのが残念です。
16. 生理の貧困が身体面、精神面だけでなく女性の機会損失ももたらすこと、生理への不浄視が母娘間で受け継がれていることがよくわかりました。早期性教育への懸念についての質問にもお答えいただけて納得しました。問題を「みえないもの」「ないもの」としないためにも各国で協力し、生理がオープンに語られる世界に近づけたらと思いました。
17. 生理の貧困について基本的なことから、今後の課題も知ることができて、大変勉強になりました。ありがとうございました。
18. 大変、勉強になりました。ありがとうございました。質問ご回答もありがとうございました。
19. 大変素晴らしいセミナー、ありがとうございました。世界各国における生理の貧困の現状について、学ぶことができました。次回も、ぜひ、参加させていただく予定です。
20. 具体的な調査結果から、世界にはいろんな状況に置かれて生理と向き合っている女性がいることが分かった。自分はこれまで生理がタブー視されていることにあまり疑問を持ったことがなかったが、それは私がたまたま生理に関わる大きな問題や悩みを抱えていないからだと思うので、もし今困っている人がいるのならばそのような人が減るような政策やキャンペーンがより広く行われて、生理への理解が進むといいなと思う。私は母と姉がいて、さらに女子大に通っていることもあって、話そうと思えば悩みを打ち明けたり、相談することがしやすい環境にあるが、父子家庭であったり、女子の少ない環境にいる人はもしかしたら一人で抱え込んでしまっているような気がして心配である。男性からの理解や、生理を公の場で恥ずかしさを持たずに話せるような環境づくりはもちろん必要であるが、それが当たり前になるにはすごく長い時間を要すると思うので、まずは今一人で悩んでいる人が気軽に話せるような学校等における環境の整備を進めてほしい。
21. 生理で学校の水泳の授業に参加できず見学していた時、クラスメイトの男子に生理のことをからかわれ、恥ずかしい思いをしたことがありました。セミナーを受けてこの苦い経験を思い出し、性教育がさらに進んで、生理は恥ずかしいものではないという認識が広まったら良いなと感じました。
22. とても興味深い内容でした。ありがとうございました。
23. 有意義な時間でした。ありがとうございました。
24. 普段はあまり触れることの出来ないスコットランドやウガンダの性教育や進んだ性への取り組みに触れることで自国の性に関する取り組みへの問題意識が高まりました。日本に根付いている血に対する禁忌や母娘間の教育が、生理をタブー視する今日の意識に繋がっているという意見を伺うことで今後の性に関する問題意識とその解決に方向性を見いだすこ

- とができました。
25. 最近話題の 이슈 というので楽しみにしておりました。UK のみならずウガンダの状況もわかり、勉強になりました。具体的なデータや動画をお示しいただき、分かりやすかったです。
 26. 今日の報告は、60 年以上前の私の子供のころの話を聞いているかのようなようでした。私も少し標準より早く生理がきたので、母親から説明を受けました。彼女は比較的進んでいる方でしたが、一応整理について説明した後、こう付け加えました。「でも、このことは、別に隠すことではないけれど、あまり人と話すことではないので、黙っていいのですよ」と。その頃は生理用品もまだ出ていなかったの、対処の仕方でも脱脂綿などを利用するように教わりました。その後、比較的すぐにアンネ・ナプキンの広告が始まり、世の中の空気を変えました。あの広告の持つ力は大きかったと思います。
 27. 日本とイギリスにおける「生理の貧困」について詳しく、また比較しながら興味深く内容を拝聴しました。とても学びが多かったです。一方で、具体的にどのような境遇の人が「生理の貧困」に陥っているのか知りたいと思いました。プライバシーなどの問題もあるとは思いますが、もし機会があれば日本やイギリスなどの具体的な「生理の貧困」のケースを聞くことができると幸いです。企画いただいた皆様ありがとうございました。
 28. 生理についてなかなか多くの人と話す機会がないので、外国の生理事情や性教育について、また日本での土俵に上がった女性に対する反応や生理についての統計などが知れて良かったです。ありがとうございました。
 29. 大変興味深く伺った。日本だけではなく世界的に、生理に対する支援は十分ではないこと、また生理に対するスティグマも強いことが印象的だった。日本における生理の貧困対策は始まったばかりであり、今後は地方自治体の取組の有効性や性教育の充実なども併せて議論をしていく必要性を感じる。
 30. 生理の貧困をめぐる状況について、イギリス、ウガンダ、そして日本の話を聞くことが出来、勉強になりました。多くの人が毎月経験しているはずの月経は、見えないものにされがちですが、そのあり方を問い直す試みが起こっていることがわかりました。本日は貴重な講演ありがとうございました。
 31. 改めて生理への理解、配慮の必要性を感じました。お茶大でもトイレに生理用ナプキンを常備する署名活動が進められていて、社会が変わろうとしているのを身近に感じました。
 32. 生理の貧困について自分の大学内のゼミで研究しているためすごく参考になり、理解も深めることができました、ありがとうございました。

